

令和5年度 学力向上プラン（10月）

学校名 中央区立日本橋中 学校

学校の教育目標

- | | |
|-------------|------------------|
| ○考える人になろう | ○心ゆたかな人になろう |
| ○たくましい人になろう | ○みんなのためにつくす人になろう |

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- | |
|---|
| 1 学習で習得した知識及び技能を活用し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。特に表現力の育成については、前年度の研究の柱である「話し合い」をさらに発展させ、主体的な課題解決能力を育成する。
2 授業の構成を工夫し、「できた」「わかった」の楽しさを実感させながら、基礎基本の確実な定着を図る。
3 教科の枠を超えて互いに学び合い、毎時間の授業の質を向上させる。
4 各種検定の取組やサブリノートの活用を通し、自学自習の意識を向上させ、学習習慣の確立を図る。 |
|---|

令和5年度「学習力サポートテスト」「全国学力・学習状況調査」「東京都生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、2、3年生は領域別正答率・問題の内容別正答率の全ての項目において、目標値と全国平均のどちらも上回っている。 ・1年生は、問題の内容別の「インタビューの内容を聞き取る」問題において、全国平均正答率を上回ったものの、目標値58.3には4ポイント足りず、「漢字を読む」においては目標値を上回ったものの、全国平均正答率78.3を2.7ポイント下回っている。	・1年生は、小学校の学習において聞くことに特化した学習の機会が少なく、生徒にとって不慣れな問題でもあった可能性がある。 ・漢字の書き取り、読み取り等について個別の課題設定ができていなかった。
数 学	・「令和5年度学習力サポートテスト」において2、3年生は領域別正答率・問題の内容別正答率の全ての項目において、目標値と全国平均のどちらも上回っている。 ・1年生は「データの活用」領域で目標値を3.5ポイント下回っている。また、分数の文章問題では10ポイント、単位量に関する問題では6.4ポイント、平均を求める問題では6ポイントを下回っている。	・1年生は小学校の既習内容をどれだけ理解できているか把握し、指導する場面が少なかった。 ・分布の傾向を考える。グループ活動や少人数指導で発表する場面が少なかった。
社 会	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、1年生が全体の正答率を3ポイント、目標値を下回っている。 ・2年生は世界の諸地域の項目のみ0.4ポイント目標値を下回り、1年生は歴史的分野の鎌倉時代～昭和時代にわたる3つの項目で平均8ポイント、目標値を下回っている。	・1年生は、歴史的分野の復習を行う機会がなかった。 ・2年生は既習事項を繰り返し復習する機会が足りなかった。
理 科	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、観点別正答率「知識・技能」の目標値を、1年生が6.1、2年生が11.7下回っている。 ・「令和5年度学習力サポートテスト」において、「基礎・活用」の目標値を、1年生が活用で11.4、2年生が基礎で8.5下回っている。	・知識・技能の定着に向けた取り組みが、2年生で効果的でなかった。 ・基礎基本が身に付くようにするため行う、繰り返し学習があまりできなかった。

英 語	・スピーキングテストに関する情報が少なく、対策が難しかった。 ・昨年度の区サポートテストの結果では、「場面に応じた英作文」の正答率が2年と3年で50ポイントを下回っているものがあり他項目に比べ低めの傾向である。 ・習得した文、語句を用いて、まとまりのある文章を書いて表現すること、即興で話すことに課題がある。 ・全ての項目において目標値を上回っているが、文法や語句に関して定着が不十分な生徒が一部いる。 ・既習内容を活用して条件に合わせた作文を書くことに課題がある。	・初めてのスピーキング実施学年で情報が少なかった。 ・既習の内容を使用して自分の力で書く事に抵抗のある生徒がいる。 ・即興だと話す自信がない。 ・知識の定着を確認する機会が少なかった。 ・表現活動に対して抵抗のある生徒が多い。
保健体育	東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等の調査結果 1年：20m シャトルラン(全身持久力)、上体起こし(筋持久力) 2年：握力(筋力)、20m シャトルラン(全身持久力)、 ハンドボール投(巧緻性) 3年：握力(筋力)、上体起こし(筋持久力)、 20m シャトルラン(全身持久力)	・日常生活において、強く握ったり、掴んだりする機会が減少したから。 ・長時間にわたって身体を動かす機会が減少しているから。 ・動きを持続する能力を向上させるトレーニング方法を知らないから。
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	・令和6年度では、新3年生は引き続き全ての項目において、目標値と全国平均のどちらも上回る。新2年生では、1年次に課題のあった聞き取り問題と漢字の問題において、全国平均正答率・目標値ともに上回るようにする。
	数学	・令和6年度学習力サポートテストにおいて、全学年合計10ポイント以上を目指す。 ・全学年、全問題について目標値を下回らないようにする。
	社会	・「令和6年度学習力サポートテスト」において、3年生はすべての項目で、2年生は鎌倉時代以降の歴史的分野に関する設問で、それぞれ目標値を目指す。
	理科	・令和6年度学習力サポートテストにおける「記述の解答形式」の問題で、1年生、2年生でプラス10ポイントを目指す。 ・令和6年度学習力サポートテストにおける「主体的に学習に取り組む態度の観点」の問題で、1年生でプラス10ポイント、2年生でプラス5ポイントを目指す。
	英語	・「令和6年度学習力サポートテスト」の場面に応じた英作文で50ポイントを上回るようにする。
	保健体育	令和6年度の東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等の調査において、体力合計点の学校平均が都の平均点を超える。
②授業改善		目標「発問の工夫や授業のまとめを計画的・継続的に行い、生徒主体的に学習に取り組む環境を整える。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。生徒学校評価アンケートで肯定的評価が90%以上となる。」 令和4年度保護者学校評価アンケート ・「わかった」「できた」の楽しさを感じながら、主体的に学び、問題を解決する力を身に付けさせているか」 肯定的な意見が78.0ポイントだったのに対し、85ポイントを上回る。 ・「個に応じた指導やタブレットの活用を通して、基礎的・基本的な学力を身に付けさせているか」 肯定的な意見が79.0ポイントだったのに対し、85ポイントを上回る。 令和3年度生徒学校評価アンケート

	・「授業の内容を理解し、達成感がありますか」 肯定的な意見が81.5ポイントだったのに対し、85ポイントを上回る
③家庭との連携	目標「自学・自習の学習習慣が身に付くようにタブレットとサブリノートを活用し、指導する。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」 令和4年度保護者学校評価アンケート ・「生活と学習のサブリノート」を活用し、学習・生活状況の把握を行い、学校と家庭との連携を深めていますか。」 肯定的な意見が72.7ポイントだったのに対し、80ポイントを上回る。 ・「学校は、保護者にとって連絡し相談がしやすく、適切に対応している。」 肯定的な意見が88.7ポイントだったのに対し、90ポイントを上回る。 令和4年度生徒学校評価アンケート ・サブリノートを活用し、毎日の復習などの家庭学習の習慣を身に付けることができているか。 肯定的な意見が64.2ポイントだったのに対し、70ポイントを上回る。
④体力向上	目標「運動意欲を高め、生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現できる資質・能力を身につけられる指導をする。」 指標① 「次年度の体力・運動能力テストで東京都の平均値を越える項目を増やす。」 →「握力(筋力)」、「シャトルラン(全身持久力)」について、東京都の平均値とほぼ等しくなるようにする。 指標② 「教科指導において、事前事後アンケートを実施し、運動有感を高める。」 →「運動やスポーツをすることは好きですか?」の項目に対して、肯定的な割合を8割以上にする。

【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国 語	・今年度の1年生も、聞き取り問題の「意図に応じて話の内容を捉え、適切な質問をしている」項目で目標値を25.2ポイント下回っている。2、3年生では類似の項目の正答率が上昇していることから、視点や留意点を明確にした話し合い活動の充実に努める。
数 学	・すべての単元について、基礎基本の定着を図るために、プリント演習に加え、キュービナやドリルパークを授業内で取り組む。 ・基礎・基本が定着している生徒に対しては、活用問題を積極的に提示し、

	数学の学習への主体性を高めることで、活用力の向上に努める。
社 会	・ どの学年も基礎的な知識・技能の一層の定着を図れるよう、授業中にキュービナ、テスト前や長期休業中にドリルパークに取り組みせ、積極的に取り組みができていない生徒には個別に声かけを行い、活用を促す
理 科	・ 基礎となる知識・技能の定着に向け、学習アプリ（キュービナ・ドリルパーク）を定期的に取り組みせ、小テストや確認プリントで定着度を確認していく。 ・ 授業内容の振り返りを行い、自分の言葉で事象・現象を説明できるようにする。
英 語	・ どの学年も基礎的な知識技能の一層の定着を目指し、単元ごとに小テストや単語テストを行う。 ・ 引き続き、既習内容を活用して自分の思いや考えを伝えるスピーキング・ライティング活動を授業内に取り入れていく。
保健体育	・ 令和5年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等の調査結果を振り返り、学校としての課題、個人としての課題を明確にし、今後どのような取組が必要であるか、検討する。また授業の導入部分でできる体づくり運動を各単元の特性に合わせて取り入れていく。 ・ 運動やスポーツを“する”だけでなく、多様な関わり方ができるよう、運動観察の方法を提示したり、ICT機器を活用して技術のポイントを他者意識をもってまとめたりできるようにする。

②授業改善

取組Ⅰ	① 話し合い活動が充実した授業 ② 問いを工夫し、生徒が主体的に考える授業 ③ 授業と単元の最後に振り返りを行い、達成感を実感させる授業。
取組Ⅱ	① 授業や単元のまとめを確実にを行い、基礎・基本を定着させる。 ② 長期休暇にミライシードのドリルパークを課題として出し、既習事項の復習に取り組ませる。 ③ 個別最適な学びの実現のため、授業でキュービナを活用し、基礎基本の定着を図る。

③家庭との連携

取組Ⅰ	① 「生活と学習のサプリノート」を活用し、生徒の生活や学習の様子を把握することで、生徒の考えや不安を理解し、保護者との連携を深める。 ② 来年度の保護者会では学習の目標と評価材料について資料を配付し、評価の仕方について理解を深めてもらう。
取組Ⅱ	携帯電話、スマートフォン、タブレット等の使用について家庭でルールを決めるよう家庭に促し、食事や睡眠時間など基本的な生活習慣を確立させる。

④体力向上

取組Ⅰ	生徒が自ら体を動かしたくなるような企画や授業を行い、楽しみながら継続して体を動かせるようにする。 ①各単元における事前事後アンケートを実施し、生徒の実態を把握した個別最適な授業を実施できるようにする。 ②運動やスポーツを“する”だけでなく、“見る、支える、知る”など、多様な関わり方を通して、運動やスポーツを身近なものにできるように、ICT 機器の活用や運動観察の方法を提示し、仲間と協同的に取り組むことができるようにする。
取組Ⅱ	毎時間の授業でコーディネーショントレーニングを取り入れる。体力テストを実施し、生徒一人一人が自身の健康や体力を把握するとともに、健康の保持増進するための運動を自ら実施できるようにする。

教務部→ 6-1 学力 指導力向上 → R05学力向上プラン
→ R5学力向上プラン（10月修正・12月提出用）